



昨年、ノルウェーから日本への輸入が再開されたヘーゲルミュージックシステムズの最上級プリアンプ。フォノイコライザー未搭載のラインレベル専用機で、入力切替、音量調整など必要最小限の機能に徹したシンプルな設計。バランス1系統を含む計6系統の入力端子、アンバランス/バランス各1系統の出力端子を装備する。

Pre-amp  
amplifier

ウォームな木質の響きと繋がりよさで弦楽合奏を聴かせる

柳沢功力

試聴した4曲のどれも中庸を捉えた平均的な出来栄で、これが本機の得難い魅力であると同時に、もう一步の積極性には乏しいと感じさせるところでもある。質感はウォームで程よい陰影感を備え、けっして刺激的だったり硬質だったり音は聴かせない、音楽ファンにとってのアットホームな聴きやすさがいい。

また「弦楽四重奏」では、ウォームな木質の響きと音の繋がりよさでアンサンブルを芳しく聴かせ、弱音にも好ましい膨らみがある。ただしどちらの場合にも、解像力の高い音の粒立ちや、強奏での鮮やかな切れ込みなどが生む緊張感には少し乏しく、表現が控え目の印象も受ける。大編成の「オーケストラ」や「ジャズ」にもそれは言えて、ともに芳醇でこころ温まる再生だしスケール感にも不足はないが、やや甘口の印象ではあった。

北欧製らしい、鮮明できりつとした涼しげな気持ちよさ

和田博巳

北欧ノルウェー製のアンプからはこちらのイメージどおりの音が出てきた。今でもお国柄というのはあるのだなと。

「声楽」と「弦楽四重奏」は何と言うか独特の気持ちよさ。それはぬくぬくとした気持ちよさではなく、鮮明できりつとした涼しげな気持ちよさだ。加えてアリアにも弦楽の合奏にも何かマジックがあるような色艶が感じられ、オーバートーンは漂いはくすぐられるよう。したがって「オーケストラ」や「ジャズ」になるとあ

と少し色濃く、重厚にという感じも無くはない。もう少し温度感や躍動感があってもいいかなと。でもこういう音も魅力がある。以前ヘーゲル同士(P4A+H4A)で聴いたときは、それほど強くは感じなかったのですが、プリアンプのほうが持つ好ましい個性と聴いた。とは言え「ジャズ」は熱いという感じではないものの、音像はシャープに結ばれ、しかも決して瘦せた音ではない。録音の古さを意識させないフレッシュさがあった。